



概要

津山市においても、超高齢社会の到来によりまちづくりの基本方向が、コンパクトシティ化・コンパクトタウン化とその連携となり、公共交通(バス)の果たす役割が高まってくることが想定される中で、規制緩和・市町村合併以降の民間バス・コミュニティバス・福祉バス等が混在している現況を、PT調査等により実際の需要を把握した上で整理し、過疎地有償運送等を検討しながら、継続可能なサービス水準を維持するために体系的な整理をするための調査検討を行うもの。

○地域公共交通の概要

規制緩和以降民間事業者の赤字路線からの撤退の穴埋めとしてのコミュニティバス、中心部の循環コミュニティバス、支所と中心部を結ぶコミュニティバス、周辺部での福祉バスまた周辺市町村からの乗入バスが混在している。

○地域公共交通の課題

様々な路線が錯綜しているため利用者にもわかりにくく、また、十分なPT調査が実施できていないため、実際の需要あるいは潜在的な需要に対応しきれておらず、また、合併に伴う整理、周辺市町村との整理が充分でないため非効率な運行もある状況。

○調査事業の主な内容

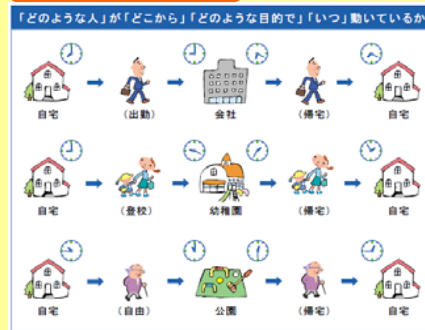
継続可能なサービス水準の検討、PT調査により実際の需要・潜在的な需要を把握した上での交通体系の整理、過疎地有償運送の検討、実証実験の検討等

○策定する地域公共交通総合連携計画の構想（予定）

サービス水準を設定した上で継続可能な財源の効率的配分に基づく交通体系の整理、わかりにくさの解消、中心部・周辺部での超高齢社会への対応(低床ループバス・過疎地有償運送)、停留所整備による利便性の向上、周辺市町村からの乗入バスとの連携への土台づくり

《 予定する事業 》

①PT調査



②中心市街地 低床ループバス



③バス停整備



④過疎地有償運送

